

は0.65%で、日間給餌率は1.59%であった。歩留りは96.9%で増肉係数は2.45であった。

VI 残された問題点

1. ミナマイクロダイ、マダイ親魚の夏期高水温時期の魚病対策。
2. ミナマイクロダイ、日令25前後における寄生性原虫対策。
3. マダラハタ初期飼育における初期餌料の検討と魚病対策。
4. コガネシマアジ日令17~20における大量減耗防止。
5. 中間育成時における細菌性疾病の予防と適正な治療。
6. アルテミアに代る大型餌料の培養および天然プランクトン大量採集技術の確立。

VII 文献

1. 沖縄県水産試験場（1981）昭和55年度 研究開発促進事業、南方海域諸島種苗生産基地化基礎技術開発研究。
2. 沖縄県水産試験場（1982）昭和56年度 研究開発促進事業、南方海域諸島種苗生産基地化基礎技術開発研究。
3. 沖縄県水産試験場（1983）昭和57年度 研究開発促進事業、南方海域諸島種苗生産基地化基礎技術開発研究。
4. 沖縄県水産試験場（1984）昭和58年度 研究開発促進事業、南方海域諸島種苗生産基地化基礎技術開発研究。
5. 北田哲夫、他（1983）長崎における養成シマアジの成長、長崎県水産試験場研究報告第9号。